地域医療連携室
大津市民病院
Otsu Municipal Hospital

地域医療連携室だより Vol.87

平成 28 年 9 月 1 日発行
発行元　大津市民病院地域医療連携室
住所　〒520-0804
滋賀県大津市本宮二丁目 9 番 9 号
TEL　077-526-8192
http://www.municipal-hospital.otsu.shiga.jp/

緩和ケアチーム の紹介

緩和ケア科診療部長
津田　真

悪性腫瘍はつらい病気です。
病気や治療による身体の苦痛、変化する病状への不安と先の見えなさ、
進行する生活のしづらさ。
患者様の中には、つらい日々を過ごしている方がおられます。
そのつらさは、ご家族にとっても、苦しい時間です。

大津市民病院では、平成 14 年に滋賀県ではじめて、これらの患者様とご家族に専門スタッフがチームをつくって対応をはじめました。現在は、緩和ケア医、精神科医、専門・認定看護師、薬剤師、臨床心理士が中心的に活動しています。

最近では早期からの緩和ケアが、終末期を含めた QOL を上げるだけでなく、生命予後を延長するとの報告も出てきています。

当院では今年の 7 月から、悪性腫瘍（がん）と診断された方が入院されると、病棟看護師が STAS-J という苦痛の評価尺度をつけるようにしました。このことで治療目的の入院であっても、電子カルテ上でスタッフ皆が、患者様やご家族の苦痛そのものを意識するようになり、苦痛の強いケースにはその日のうちから緩和ケアチームが介入を開始できるようになりました。

緩和ケアチーム

神原 薬剤師　笹田 臨床心理士　杉江 がん看護専門看護師

阿部 薬剤師　津田 緩和ケア科診療部長　前林 精神・心療内科診療部長

チームメンバーは、その専門性を活かした個別対応するほか、週 1 回、チーム回診とミーティングを行い、苦痛緩和の可能性を検討しています。

例えば・・・

数日前に肺がんと告知され、初回の化学療法のために入院された A さん。入院時に STAS-J で介入の必要があるスコアになりました。

A さんは、「がんと言われたけど、これからどうなるか不安で眠れないんです。抗がん剤は副作用が、しんどいんでしょ？」と言われます。ご家族もそんな A さんにどう接して良いかわからないようでした。

緩和ケアチームは、A さんとご家族の不安を丁寧にうかがいながら、薬剤師から抗がん剤についての情報提供をしました。看護師が、今後の生活で気をつけることについてお話しをしました。不眠については精神科医がうつ病でないことを確認しながら、睡眠薬の選択を主治医に提案しました。

このように、緩和ケアチームは、治療チームと協力しながら、その方とご家族のつらさを軽減し、患者様の治療選択をサポートしています。皆さんの苦痛が少しでも和らぐことをお祈りしています。

診療所訪問 を実施いたしました

平素より当院の病診連携にご理解ご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

7 月 6 日（水）より約 1 ヶ月間に渡り、診療所訪問を実施いたしました。

院長・副院長を初めとした経営層と外科・内科・小児科の診療部長、地域医療連携室で約 300 の診療所を訪問させていただき、先生方には診療の大変お忙しい合間にもかかわらず、ご対応いただきまして誠にありがとうございました。心より感謝申し上げます。

また、訪問時にお願いいたしました、本院の「かかりつけ医制度」へのご登録につきましても新たに 40 を超える診療所の先生方からお申し込みをいただき、現在当院にて「登録証」「リーフレット」等の準備をすすめているところでございます。

訪問時にいただいた当院へのご意見もございます。今後はそれらのご意見も参考にしながら、よりスムーズな病診連携が進められるよう努力して参る所存ですので、今後ともよろしくお願い申し上げます。

肝臓がんにならないために

消化器内科（肝臓部門）高見史朗診療部長に聞きました。

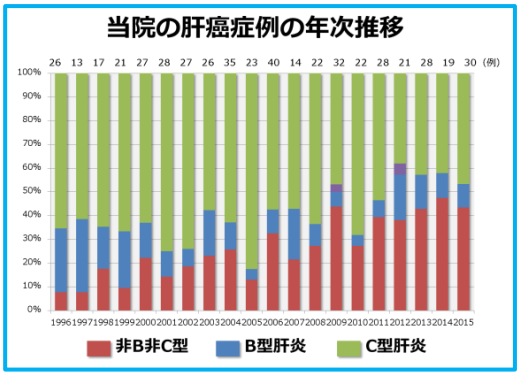
（左）消化器内科診療部長　高見史朗医師

最近の肝がんの状況について教えてください

国内では年間 3 万人以上の方が肝がんで亡くなっておられますが、その数は 2005 年頃をピークに少し減少しています。ウィルス性肝炎の患者様が減少していることがひとつの要因です。一方で非ウィルス性の肝がん（非 B 非 C 型肝がん）患者様が増加していることが問題となっています。

ウィルス性肝炎の患者様が減っているのはどうしてですか？

B 型肝炎、C 型肝炎は、感染予防対策により新たな感染者が減少したことに加え、ウィルス性肝炎の治療効果が非常に良くなったことがその要因です。特に C 型肝炎では、短期間（12 週間）の経口の抗ウィルス薬の治療で、殆ど副作用なくウィルスが排除されるようになっています。**当院では 2014 年以降 130 例以上の患者様にこの治療を施行しており、治療中止に至った副作用は 1 例のみ、ウィルスが排除されなかったケースは 2 例のみでした。**今後は、感染に気付いていない感染者の発見や治療を受けてない患者様の専門医への受診推奨が急務と考えています。



非ウィルス性の肝がんとはどのようなものですか？

過度の飲酒が肝臓に悪いことは良く知られていますが、この他に肥満、糖尿病、脂肪肝などの生活習慣病と関連していることが多いです。このため“メタボ肝がん”と呼ばれたりします。**当院でも非 B 非 C 型肝がんが増加しており、最近 5 年間では新規で診断された肝がん患者様の約 40%に達していました〈左表〉。**生活習慣病を持っている方も肝がんの発生に注意して診療していく必要があると思います。

肝がんが発見された場合、当院ではどのような治療を行うのですか？

肝がんは慢性肝疾患に合併することが多いので、治療に制限がある場合や治療後の再発が多いのが特徴です。このため、消化器内科での内科的治療が重要です。当科では、ラジオ波焼灼療法、エタノール注入療法などの経皮的治療、肝動脈塞栓療法、リザーバー動注化学療法などの経血管治療、ソラフェニブによる全身化学療法などの治療を状況に応じて施行しています。**当院では、5 名の肝臓専門医を中心として、これらの全ての治療を消化器内科で対応しており、背景の肝疾患の治療と併せたトータルマネージメントを実践しているものと自負しています。**また、外科と連携して根治治療が可能なケースでは肝切除を積極的に行っていますし、昨年度より導入された放射線治療と併せて、集学的治療が可能となっています。

今回、当院で市民公開講座が開催されるということですが

肝がんの治療も進歩していますが、やはり肝がんにならないことが最も重要です。このことをテーマに日本肝臓学会の主催の市民公開講座を当院で開催予定です。治療が上手くいくためには、患者様が疾患を良く理解しておくことが重要と考えています。肝疾患の患者様やご家族などご興味のある方は是非ご参加いただければと思っています。勿論、医療関係者の方のご参加もお待ちしております。

ありがとうございました。市民公開講座の日程は、9 月 24 日（土）ですね？

はい、9 階の会議室で行います。琵琶湖の展望がとても良い部屋ですので、是非お越しください！お待ちしております。ありがとうございました。

日本肝臓学会 市民公開講座
～肝臓がんにならないために～

日　　時　：　9 月 24 日（土）　13 時～16 時
場　　所　：　大津市民病院　9 階大会議室
参 加 費　：　無　料
申 込 み　：　不　要

講　　演（講演順）：
消化器内科診療部長　**高見　史朗　医師**
栄養部　**中井　和美　管理栄養士**
消化器内科医長　**城　正泰　医師**
消化器内科医長　**益澤　明　医師**

お問い合わせ・地域医療連携室　TEL:077-526-8192

こんな看護をしています － 手術部 －

～患者に寄り添える看護の実践～

手術部看護科長　岡本 晃代

当院の手術室は 8 室（バイオクリーン・ルーム 1 室）あり、平成 27 年度手術件数は 3970 件ありました。手術部スタッフは 25 名（看護師 24 名、臨床工学技士 1 名）で業務しています。大きな看護業務としては「器械出し看護」と「外回り看護」に分かれますが、1 つの手術に関わるスタッフは術者を中心に麻酔科医・臨床工学技士など、さまざまな医療スタッフと手術チームとなり支援しています。

また手術部看護師の業務は手術介助だけではなく、術前・術後訪問も行っています。術前訪問では、手術を受ける患者様と顔見知りになり互いの信頼関係を築くこと、また手術室入室から退室までの一連の流れや看護援助について説明し、患者様・ご家族の手術に関する疑問や相談に応じ不安の軽減を図ること、病棟看護師と情報を共有し患者様に必要な援助について確認しています。術後訪問では術前・術中・術後を通して行った自分の看護を振り返り評価し、患者様の思い・訴えに耳を傾け寄り添える看護ができるよう月に一回症例検討会を行い手術室看護の質の向上に努めています。

手術を受ける患者様は手術や麻酔による侵襲、手術体位による皮膚障害、体温変動などで生命力が消耗しやすい状況にあります。その中で私たちは、正確でかつ安全な器械出し介助を行い、手術体位の工夫、適切な体温管理など、手術が安全・安楽・円滑に進行し合併症が少なく回復できるよう、そして一日でも早く元の生活に戻れることを願いながら手術室看護を実践しています。

また患者様の安全を守るキーパーソンは看護師です。手術室入室時の誤認対策として患者様自ら氏名を名乗っていただき、リストバンドのバーコードで確認します。手術部位についても患者様に手術部位を確認し手術同意書で確認、病棟看護師や主治医と確認するなどあらゆる手段を用いて実践しています。さらには WHO 安全チェックリストを活用し、外回り看護師がチェッカーとなり手術チームとしてコミュニケーションを図り、手術の安全性が高められるよう日々取り組んでいます。

＊9 月開催のお知らせ＊

大津市民病院 9 階大会議室・参加費無料

●大津市民病院大学・健康講座

9 月 9 日（金） 14 時～15 時

テーマ：「タバコフリーでストレスフリーな社会にしませんか ～今なぜ禁煙がブームなのか～」

講　師：日本禁煙学会認定専門看護師　**金山　美保**

9 月 29 日（木） 14 時～15 時

テーマ：「腰痛・肩こり・膝の痛みの予防運動について」

講　師：リハビリテーション部理学療法士　**大橋　潤一**

お問い合わせ・地域医療連携室 TEL：077-526-8192

●第 25 回総合内科症例検討会

9 月 8 日（木） 17 時 30 分～（約 1 時間）

テーマ：「微熱、関節痛を主訴に受診した高齢男性の 1 例」

症例提示：臨床研修センター研修医　**高橋　祐輔**

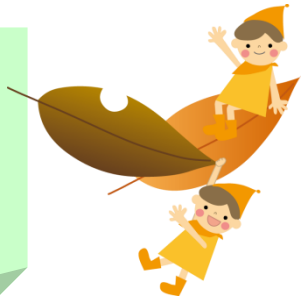
公開講座としています、院外からも多数の参加をお待ちしています。

●NST 勉強会

9 月 29 日（木） 17 時 30 分～19 時

テーマ：「口腔ケアと摂食・嚥下」

講　師：歯科口腔外科　**山本　伸子**

摂食・嚥下障害看護認定看護師　**西　真由美**

お問い合わせ・栄養部/西田 TEL：077-522-4607（代表）